

コウノトリ よみがえる里山 さとやま

みやがきひとし 小峰書店
宮垣 均 作 こ みねしよてん

二月^{にがつ}。くちばしに長い枝^{えだ}をくわえてコウノトリが飛^とんで
いった先^{さき}は、田^たんぼのまん中^{なか}に立つ人工^{じんこう}巣^す塔^{たう}。夫婦^{ふうふ}は、新^{あら}
たな命^{いのち}の誕生^{たんじょう}にむけて巣^すづくりをはじめました。
江戸時代^{えどじだい}までは全国各地^{ぜんこくかくち}でくらしていた日本^{にほん}のコウノ
トリととも^いに生きることを選^{えら}び、自^し
然^{ぜん}の再生^{さいせい}、維持^{いじ}に取^とり組^くんでいます。
今^{いま}では豊岡^{とよおか}生まれのコウノトリが、
全国^{ぜんこく}で見^みられるようになりました。
コウノトリの四季^{しき}と、豊岡^{とよおか}の取^とり
組^くみを、豊富^{ほうふ}な写真^{しやしん}で紹^{しょう}介^{かい}します。

